

令和5年3月13日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願ひいたします。

◆市長

よろしくお願ひいたします。話題に入る前に、今日からマスクの着用が個人の判断に委ねられるというのはご承知のとおりです。この会場は換気も良くしてありますので、さっそく私も今日からマスクを取っての記者会見に臨みたいと思いますので、ご理解をお願ひいたします。

さて、ではマスクを取る場面、取らない場面、いろいろためらいもあると思いますので、静岡市の考え方をここでお伝えをしたいと思います。パネルを用意いたしましたので、ご覧ください。まずは国が示したマスク着用の考え方を見直しの大きなポイントは、行政が一律にルールを定めるのではなくて、個人の主体的な選択を尊重するというものでありました。ですので、市民の皆さんは、ご自分で判断をしてマスクを着用する、しないを決めてもらうと。これが基本であります。なので静岡市役所にお越しになる際も、マスクをどうされるのかというのはご自身で考えてくださって結構です。ただし、せきなどが出ていても、やむを得ず役所に来なければいけないということもあろうかと思ひます。そういう時にはマスクを着用していただくなど、周りの皆さんへの配慮をお願ひしたいと思ひます。ここに書いてあるとおりであります。

一方、行政側、市の職員のほうも、職員に対して一律にマスクを着用するという指示はいたしません、マスクをしていない相手と話すことに、まだ不安を持たれる市民の方もいらっしゃるかと思ひます。来庁される方、お一人お一人のご事情や考えを事前に伺うということはできませんので、どんな方でも安心して市役所に来てもらうために、住民票の発行など窓口業務に従事する職員についてはマスクを着用することにいたしました。基本的には、こういうことなのですけれども、少し詳しくは田中保健所長から補足をしていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。これは医学的な見地から、どうしたらいいかということについて、補足をしていただくということでもあります。

◆保健所長

保健所長の田中でございます。私も取ってしまいたいのですけれども、花粉症がひどくてちょっと取れる状況にありません。今、申し上げましたように、個人

個人のマスクの着脱に関しましては、個人の判断に委ねるということで今回、判断を示したところですが、やはりこの3年間、この感染症の中でいろんなことを市民の方は学ばれていると思います。要はそういったことが浸透しているということを前提として、今回こういう判断に至ったわけですけれども、さらにそこを具体的に、じゃあ、どういう場面が相当するのかということについては、国のほうも先日、通知のほうでそれを示しておりますけれども、やはり今回、高齢者と重症化リスクの高い方、こういった方については、別にウイルスの性格が変わったわけではありませんので、やはりこういった方々に対する配慮ということは、国のほうからマスクの着用が効果的な場面として例示をいただいております。スライドのほうにもありますように、やはりまず医療機関の受診時、やはりそういった方がかなりの割合でいらっしゃるということがありますので、そういった時には、やはりマスクは着けたほうがいいのではないのでしょうかということで、推奨するということになっています。また、医療機関だけではなく、高齢者と重症化リスクの高い方が多く入院、生活をしている医療機関や高齢者施設を訪問する時、やはりこのウイルス、症状が軽い、あるいは症状がないということも一つ、特徴になっていますので、そういった所を訪問する時には、ぜひ着けていただくのがいいのではないかと、ということで推奨されているということです。

また、通勤ラッシュ時など混雑した電車やバス、こういったとこに乗車をする時も推奨するということになっていますが、こちらのほうも概ね全員の着席が可能なもの、新幹線であるとか高速バス、こういったものについては除くということで例示されています。今、申し上げましたように、新型コロナに関しましては、今、申し上げたような所での着用は推奨をいたします。また、今、私、花粉症の話をしましたけれども、いろいろな理由でマスクをしなければならないという方もいらっしゃいますので、そういった点につきましては、着脱双方を個人の判断に委ねられているということをぜひご配慮いただきたいと思っております。以上です。

◆市長

田中所長、ありがとうございます。今の説明を何かの参考にしていただければと思います。お互い思いやりを持っていくということが大事なのだろうというふうに思います。私からは以上です。

◆司会

それでは、ただ今の発表につきまして皆様からのご質問を、まずはお受けしたいと思っております。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは続きまして幹事社質問に移りたいと思います。時事通信さん、よろしくお願いいたします。

◆時事通信

幹事社の時事通信です。よろしくお願いいたします。質問、2問ございます。まず1点目、任期満了まで残すところ1カ月となりました。残り短い期間ではありますが、最後に何か力を入れて取り組みたい、あるいは、やり遂げたいと考えていることはありますか。お願いいたします。

◆市長

ありがとうございます。まず、日本で66年ぶりの13球団目の静岡のプロ野球球団誘致、このことを下準備、精いっぱい、任期あと1カ月ですけれども、やり遂げたいというふうに思っています。WBC盛り上がっていますよね。木曜日の対イタリアの準々決勝も楽しみであります。静岡も、もとより野球王国であります。野球の裾野の振興のために、NPBがファーム拡大構想を打ち出しました。私自身も12年前の市長選、初当選の時のマニフェスト、公約に掲げたのが、これでありましたので、今年の春にNPBから公募の条件等々が示されるというふうに伺っておりますので、ハヤテグループを私たちはしっかり下支えする、連携していくと。この下準備に取り組んでいきたい、力を入れていきたいというふうに思います。

それからもう一つ、どうしても実現したいことは、任期中に県知事とお会いをしたいというふうに思っています。政令市と県という組織同士が抱えている課題や問題を、もう一度話しをして、共有化したいというふうに思っています。私自身、先日、施政方針の中で申し上げましたとおり、30年前、市議会議員に初当選した時の志は、旧清水市と静岡市が合併して、政令指定都市に移行したいというものでありました。それは実現をいたしました。ただ、政令市になっても、県との関係というのは連携していくべき、より良いものであるべきだというふうに思います。そのことについて、きちっと任期中に県知事と心合わせをしていきたい、そんな気持ちであります。

◆時事通信

ありがとうございます。すいません、2点目お伺いします。今月1日、市の消防局の職員の方が自宅に放火したとして逮捕される事件がありました。昨年11月には別の消防局の職員の方が道路交通法違反で逮捕されています。こうした相次ぐ消防局職員の不幸事をどのように受け止めていらっしゃいますか。また、消防局員に対して、何かしらの指導を行う考えはありますか。お願いいた

します。

◆市長

これは遺憾です。大変申し訳なく思っております。3月7日に大長副市長、本田副市長、両副市長に消防局に出向いてもらいました。そして、消防局の幹部職員に対して、もう1回服務規律を徹底し、組織の襟を正すとともに、スピード感を持って再発防止策を講じていくよう指示したところであります。消防局の各職員がそれぞれ一人一人、この訓示というものを重く受けてくれることを期待しています。

◆司会

それでは、ただ今の幹事社質問に関連するご質問をお受けしたいと思います。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。まず一つ目お答えいただいた件ですけれども、通常、県内の首長が対面される時、ましてや12年間もお務めになった首長さんが、退任の挨拶で知事に会われるのは、この場で宣言するまでもなく、当然のことかと思えますけれども、アポイントはまだ取れてないのでしょうか。

◆市長

これからです。

◆NHK

普通は会いますよね、お疲れさまでしたということで。それをわざわざこの場で宣言するほどの何か大きなことなのか、あるいは実現可能性が乏しいと思っただけなのか。

◆市長

いやいや、そういうことじゃなくて、私の申し上げたいことは、今、人事異動の季節ですので、行ったり来たりやっぱりそういう挨拶ありますよね。私もそういうことで、いろいろな所にこれから挨拶回りをしていかなければなりません。ただ、やっぱり知事とはやはり12年間、いろいろなことがあった中で、やはり政令市であっても県と連携していく必要性というのは、私自身も感じておりますので、そのことについてきちっとお伝えをしたいなど。そんな気持ちであります。

◆NHK

例えば携帯電話で、知事、今度伺っていいですかとか、何かやりとりはされていないんですか。

◆市長

していません。例えばこの前、県議会で県知事が、G3をこれから再開したいということを答弁されましたよね。それについても市長が変わったからG3を再開するというのではないと思うのです。やはり政令市と県の在り方がいかにあるべきかと、そういう心合わせをしたという前提で、やはり私たちがそのテーブルに着くかどうか、ということ判断しなければいけないというふうに思っています。ですので、やっぱり私の任期中に、そのところはしっかりお伝えしたいということでもありますので、よろしく願いいたします。

◆NHK

ごめんなさい、G3を開くかどうかは新しい市長に委ねるということではないんでしょうか。

◆市長

やはり組織同士の問題ですので、次の市長にはいろんな意味で4次総の基本路線というものを継承してもらいたい、これは、すごく私がこだわっていることです。

◆NHK

ちょっと今の話とG3の結び付きが分からなかったんですけど、いずれにしろ知事に会うことは当然に実現するだろうと思ってらっしゃいますか。それともハードルや気後れを感じてらっしゃるのか、どう。

◆市長

いや、それは分かりません。いずれにしても退任の挨拶には伺う予定ですので、時間を取っていただきたいなと思います。

◆NHK

浜松の康友市長とはどうですか、退任の挨拶で面会するというお考えは。

◆市長

それはまだ決めていません。

◆NHK

特に、例えば中部の他の5市2町の首長さん方ですとか、浜松市長にも挨拶、行かなきゃなっていう強い意識は、特におありでないですか。

◆市長

はい。できる範囲で、やっぱり公務、最後までありますので、その範囲の中で、できる範囲、やはり会うべき人には会っていきたいな、というふうに思っています。これは国のほうも同じですし、しかしながら、退任した後からも挨拶回りはできますので、退任して公務がなくなった後、それぞれ挨拶回りも出かける、4月いっぱいはそのようなことで忙しくなるんだろうと、そんなふうに私、思っています。

◆NHK

ちなみに選挙の後、新市長に引き継ぎと言いますか、心合わせをされるというお考えは、要望があるかどうか次第でしょうけれども、いかがでしょうか。

◆市長

もちろん。引き継ぎをしっかりとするつもりです。

◆NHK

新市長には会いたいということです。

◆市長

もちろん。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

SBSです。今の幹事社質問に関連してですと、消防の件でお願いいたします。

これだけ不祥事続きということですがけれども、以前、体質についてはちょっと質問させていただきましたが、改めて市長として組織的に不満が募りやすい何かがあるのか、こういった局長はじめ謝罪せざるを得ない状況になっている、この静岡消防局の課題だったり、問題点というのは市長の中では何がこうなってしまっている要因なのか、考えがあれば教えてください。

◆市長

組織の上下の風通しがどうなのかな、という問題意識を持っています。特に危機管理の組織ですので、上から下は上意下達がいくのしょうけれども、下から上にちゃんと伝えるべき情報が伝わっているのか、それについては課題があるのではないかな、というふうに私は思います。また、3市2町の広域消防をやってみて、例えば、島田市や牧之原市の新しい視点で静岡市消防の在り方を見直すいい機会をいただいたというふうに思っていますので、また、不祥事が続いてしまったこと、これが一つの大きなきっかけになって、組織の風通しが良くなるとか、あるいは綱紀粛正が図られるという前向きなことにつながっていけばうれしいなと思っています。いずれにしても今回の不祥事、これは責任を感じています。

◆SBS

この流れだと、内部告発とまではいかないかもしれないですけど、うみを出し切るっていう意味で、また不祥事というようなものが連続して出てくるようなこともあるのかなというのは、ちょっと想像するところではあるんですけども、もし、仮にこういうのが続いてしまうようでしたら誰の責任になるのか、またはどういう対策が必要なのか、いかがでしょうか。

◆市長

広域消防の責任者は私ですので、私の管理責任ということになります。ただ、そうしないように、おっしゃるとおり今回うみを出し切って、そして、はつらつと消防職員が仕事に従事してもらうように、もとより市民の安全、安心を守っている尊い仕事をしてくれている現場の職員ですので、彼らのはつらつとして仕事に従事できるような、そういう環境を、私のこれも任期いっぱい、精いっぱいやっていきたいというふうに思います。そういう観点から、異例ですがけれども、今週の土曜日、もう一度、3市2町の首長に集まっていただいて、協議会を開く予定です。

◆SBS

承知しました。ちなみに広域化によってさまざまな連携が難しいっていうのが実情だとは思いますが、この広域化っていうのを解除する考えなどはありますか。

◆市長

これは10年で一度見直しの時期がありますので危機感を持っています。せっかく全国で有数の規模の、約90万人の市民、町民の皆さんを守る大きな消防ですので、大同団結はこれからもしていきたいとは思いますが、静岡市消防への信頼が、例えば他の市町の皆さんから失ったままでは、これもままならないという危機感を持っています。そうならないように、これから、この災いを転じて福となすという形になっていかなければいけない、というふうに思っています。

◆SBS

分かりました。現場で活動されてる隊員の方々は、まさに命がけでやられていると思いますので、やっぱり組織が隊員を守る、延長線上に市民を守るということになると思いますので、また、そこは任期に限らず続けていただきたいな、というのが思いであります。すいません、ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

度々すいません、NHKです。消防局長から何かコメントや弁明などあれば伺いたいんですが。

◆消防局長

消防局長の秋山でございます。今、市長からもお言葉をいただきましたけれども、私も消防行政を統括する責任者として、本当に今回の不祥事等について責任を重く感じておるところでございます。市長のほうから2市2町との広域の関係がお言葉ございました。私ども今年度7年目であったんですけども、継続してやっていきたいという職員の思いがございます。本当にこの事態を真摯に受け止めまして、いろいろな組織改革、こちらのほうを進めてやっていきたいというふうに思っております。以上でございます。

◆NHK

すいません。責任と組織改革とおっしゃいましたが、局長の任期もあるかと思えますけれども、何をなさいますか。

◆消防局長

組織改革につきましては先日、協議会の中で、組織の改革の方向性、こちらのほうを挙げさせていただきました。主に四点ですけども、一つがコンプライアンスの徹底、それから職場環境の改善、それから人材育成、四点目が事故再発防止策の推進という形で、これから詳細につきましては、局内で今、揉んでいるところでございます。信頼回復に向けてやっていきたいと思っております。以上でございます。

◆NHK

すいません。コンプライアンスも職場環境改善も人材育成も事故再発防止も、これまでの不祥事、あるいは殉職事案のたびに繰り返してこられたことかと思えますけど、まだ足りないことがあるというご認識を、今回、新たにされたということでしょうか。

◆消防局長

職員はそういった知識というものが職員になった時から付いているのですけれど、その意識というものが足りないんじゃないか、ということでありまして、そういった意識付けも改めて持って、組織の一職員としてやっていきたいということだと思っております。

◆NHK

意識付けとは何をなさるのでしょうか。

◆消防局長

やはり研修等を数多く繰り返して、その中の意識を呼び起こすということだやっていきたいと思っております。

◆NHK

あと、責任とおっしゃいましたけど、どのような責任を取られるんですか。

◆消防局長

責任につきましては、副市長等に今、相談をしているところでございます。以上

でございます。

◆NHK

任期中に何かの処分を受けるほうが、姿勢が伝わるだろうというお考えはおありなんでしょうか。

◆消防局長

その辺も含めて副市長には相談しております。以上です。

◆NHK

ありがとうございます。

◆司会

SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

すいません。ちょっと関連して、局長せつかく出てきていただいたので、これだけ不祥事続くと、トップ、本来は広域消防で言うと市長になりますけども、局としてのトップであると秋山さんになると思います。これまでの政治…人生の中でもこれだけ不祥事が続くと引責辞任っていう選択肢もあっても自然かなと思うんですけど、その辺り選択肢があるのか、その辺り考えているのか、そもそも、それはいかがでしょうか。

◆消防局長

今回の不祥事がいろいろあった中で、やはり私は消防局長として、組織を立て直さなきゃならないというところがございました。それを今もやっているところでございます。以上です。

◆SBS

つまり、それを任期までやり切るということでしょうか。

◆消防局長

一応任期までやり切りたいというふうに思っております。

◆SBS

この後、何か同じような不祥事が続いた場合は、どうなりますでしょうか。

◆消防局長

そういったことを含めまして、副市長と相談しているところでございます。以上です。

◆市長

局長も責任は強く感じているということも、日ごろの会話の中で私は知っております。ただし、広域消防の最後の責任は市長である私であります。私はこの消防の不祥事もあった台風15号のご迷惑をかけたという気持ちもある。そして、3期目、3次総がここで節目を迎えるという総合的な見地から、今回、出馬しないという決断をいたしました。これも一つの責任の取り方だにご理解いただければありがたいというふうに思います。

◆司会

その他、幹事社質問関連のご質問はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、その他のご質問をお受けしたいと思います。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。すいません。幹事社関連でコロナ対策なんですけど、この記者会見場のこのパネルは外していただけたりするんですか。ちょっと見づらいですね。

◆市長

そうですね。今日、僕は外してもいいんじゃないかなと思ってはいたんですけども、見づらいですね。でも、これ、万が一ということで広報課がセットしてくれたと思うんで、その辺りどんなふうに、記者会と打ち合わせをしながら決めることなのかな。

◆司会

記者の皆さんの前のアクリル板につきましては、市長と記者の皆さん、あるいは私、司会と皆さんの前というのは2メートル以上空いておりますので、アクリル板は取らせていただいております。記者と記者の皆さんの間が、ちょっと1メートルということになるというふうになっておりますので、今は付させていただきますけれども、もし記者の皆さんからご要望等があれば外させていただきますというふうに思っております。以上です。

◆市長

外す方向でぜひ、記者会と合意できればなと思います。

◆中日新聞

あと報道陣のマスク着用も、個人の判断ってということになりますか。

◆市長

そうです。

◆中日新聞

ありがとうございます。

◆司会

静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞のイケヤです。すいません、マスクの話で申し訳ないんですけども、市長、今、マスク外されて、来る時はマスクしてたかと思うんですけど、この会見以降はいわゆるマスクをまたするのか、もう市長はマスクをしないという判断をされたのか、どちらですか。

◆市長

実は私、所長と同じく花粉症ですので、記者会見終わったらまたマスクをします。

◆静岡新聞

花粉の時期が終わったら外すということで。

◆市長

そうですね。

◆司会

その他はいかがでしょうか。朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

全然違う話なんですけども、大学再編の件でお伺いします。静岡大学の日詰学長

が私案としていた1法人1大学ということ、これを浜松医大と俎上に載せたいという考えを、ちょっと一歩進んだかなって感じがするんですが、このことについて田辺市長、どのようにお考えでしょうか。

◆市長

大学同士の話し合いで、ぜひ、これも俎上に上げながら議論を深めていただきたいと願っております。

◆静岡朝日テレビ

日詰学長が1法人1大学、合意が1法人2大学ってということなんですけど、去年、浜松の鈴木康友市長が、2法人2大学でもいいんじゃないかみたいな話もあったんですが、この件についてはいかがですか。

◆市長

いろいろな考え方があろうかと思えます。いろいろな選択肢の中から大学同士が決めるべきだというふうに、私は自重したいと思っています。

◆静岡朝日テレビ

特に1法人2大学がいいとか2法人2大学がいいとか、そういうお考えはありますか、市長として。

◆市長

市長としてというよりも、やはり日詰学長がおっしゃっているように、ダイバーシティというものが大事だと思います。学部を越えて総合知を、授業の中だけではなく人間関係を厚くする、そういう中で、やはり人間性とか、人間力というが育まれていくんだろうというふうに思います。そういう意味では魅力のあるユニバーシティにしていくにはどうしたらいいのかという発想で、大学同士で議論してもらえればうれしいなというふうに思っています。

◆静岡朝日テレビ

最後なんですけど、前の会見の時に静岡大学から静岡市に説明がちょっと不足していたのではないかと、みたいなお話をされたと思うんですが、確認なんですけど、一番最初に、この静岡大学から静岡市、田辺市長に説明とか報告があったのというのは、いつ頃、どんな形であったんでしょうか。もし分からなければ後でもいいんですが。

◆市長

これは大事なことです、ここで確認をしたいと思います。ちょうど4年前です。選挙の直前でした。2019年、平成31年2月6日に石井前学長が市長室にいらっしやって、私にその話をされましたが、私はそれを聞き置くだけであって、これを了承したという事実はありません。むしろ地域ときちっと話をするべきだと、私、選挙で今忙しいので、これがまた終わった後にやりましようと言って別れた記憶があります。

あるいは、私とお会いをして、2月16日、そこから1カ月ぐらいたった3月18日、やはり時期尚早だと。やっぱり静岡大学の学内のきちっとコンセンサスを得るべきだという教授の皆さんが、県庁で記者会見をしています。もう少しじっくり話すべきだということを石井前学長に、学内でもアピールしてるんです。にもかかわらず、3月29日ですね、合意書を取り交わしてしまった。ここに、そもそもの間違いがある、ボタンの掛け違いがあるというふうに私は理解しています。だからこそ合併について、まだ時期尚早だ、という主張を持っている日詰学長が学内の選挙で当選したということでもありますので、合意がスタートではないんです。合意以前の静岡大学のやっぱり拙速な学内コンセンサスというものがあつたのではないかなと、私は傍らから見て思います。静岡市に対してもそうでしたから。

◆静岡朝日テレビ

分かりました。ありがとうございました。

◆司会

その他いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

度々すみません。NHKですが、今の点、これ、あえて伺いますけれども、浜松側は静岡市が先に行政介入したんだと主張している点について、市長のご認識伺いたいですけれども、4年前の2月6日に石井学長とお会いになった時に、前も似たようなこと伺いましたけれども、それはもう一切の議論、大学内で議論されたらよろしいかと思います、市としては特に何も意見はないです、というようなスタンスを取るというお考えは、その時点でなかったのか。逆に、了承したという事実はないとおっしゃいましたが、その時点で石井学長の説明に対して市長は、じゃあ、どういう言葉で返したのかお聞かせいただけますか。

◆市長

聞き置いたということです。さまざまな取り組みをしてくださいよと、大学も統合の時代を迎えていますよね、ということは申し上げました。ただ、残念だったのは、私はそうやって聞き置いただけのつもりだったのですけれども、3月27日の静岡大学の中の協議会において、あたかも静岡市長にも賛同いただいているというようなことをおっしゃっているんです。それは事実とは違うということは、はっきり申し上げておきたいと思います。浜松市長は賛同されたかもしれませんが、静岡市長は賛同したつもりはなかったということを、学内協議会で浜松市長にも静岡市長にも賛同していただいたような発言をされたということです。そのところは訂正していきたいと思います。石井前学長に対してね。

◆NHK

その訂正の経緯も静大側からも発信されてますので、個人的には承知しておりますけれども、そういった聞き置くだけで了承はしないですとか、その後の静岡市議会会派連名での申し入れ書の件ですとか、そういうこと自体が結局、行政介入じゃないかという浜松側の主張に対しては、どう思ってますか。

◆市長

それは介入ではなくて静岡大学のほうから申し入れがあったので、私どもは地域としてこう思うと答えたわけです。

◆NHK

聞かれたことに答えたということですか。

◆市長

おっしゃるとおり。

◆NHK

その市議会の申し入れの件も…

◆市長

そうですね。

◆NHK

申し入れは能動的に起こした行為だとは思いますが、それも。

◆市長

とにかく心配していましたので、市議会の皆さんも。それはどういう形で、じゃあ、これを進めていこうかと市議会の皆さんとも議論して、申し出をいただいたという経緯があります。

◆NHK

分かりました。それと、この関連で合意書自体にもあったかと思えますけれども、静岡市内の、例えば県大ですとか他の大学との静岡キャンパスとの連携については、市長はどのようなお考えでしょうか。

◆市長

これもあくまでも個人的な意見ですけれども、それも有りですよね。山梨市では、もう、そういう動きがずいぶんあるやに伺っております。

◆NHK

それは、そういう議論も、もっとこれから進めていいんですか。

◆市長

ただし、今は静岡大学と浜松医科大学の議論が目下でありますので、それを尊重して見守りたいというのが私の立場です。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

SBSです。間もなく台風15号から半年になりますけども、復旧状況として何%ぐらいまで進んでいるかという所感と、これから、その復旧、復興に向けてどんなことに力を入れていきたいのか、改めて教えてください。

◆市長

今、検証も進んでいるところでありますけれども、最終報告をもってしっかり伝えたいというふうに思っています。まだまだ、進んでいるところもあるけれ

ども、まだまだ進んでないところもあるのではないかな。とにかく予算案、今、上程していますので、その流れの中できちっと、二度とこういう災害起こさないように、前向きに考えていきたいと思っています。

◆SBS

市民からはどうでしょう、まだこんなところは足りないよってというのは、いまだに声が届くような状態なんですか。

◆市長

今日は所管がいますか、危機管理…

◆危機管理統括監

危機管理統括監の梶山でございます。市民の皆さんからいろいろなご意見をいただいております。その中には振り返った形のご意見であるとか、これからこういうふうにしてほしいという、ご要望的なご意見であるとか、さまざまなご意見をいただいております。こういったものを今、最終報告に向けて調整しているということでございますので、3月末にその辺りも公表させていただきたいというふうに考えております。

◆SBS

今後の要望としてはどんな声っていうのは、紹介できる範囲で結構ですが。

◆危機管理統括監

すいません。正しい文言ということではないですけども、河川の整備を進めてほしいですとか、そういった何年かかけてもこういうことをお願いしたい、というようなご要望もいただいております。

◆市長

大局的に考えると、とにかく我々は昭和49年の七夕豪雨、あの時間雨量に対応するスペックで今まで治山、治水対策等してきたわけです。それは先人の皆さんの努力で、私も議員として、ずっとそれに取り組んできましたので、ずいぶん進んだんです。それでも今回、地球温暖化に起因する線状降水帯の発生による台風15号を耐えられなかった。だから、根本的に、このスペックを上げていくということと、車の両輪で地球温暖化はとにかく解決する、そういうまちづくりをしていかなければならない。そのことを、やはり我々、認識していかなきゃいけないし、市民の皆さんにもご理解いただきたいことでもあります。

◆SBS

なかなか数字的に表現するのが難しいかなとは思うんですけど、どこまで復旧進んだから何%って言えるのか、それとも任期までに何%まではいきたいとありますか。

◆市長

それは難しいですね。数字は難しいですね。でも、この半年間、やるべきことはしっかりやってきたというふうに、職員の皆さんを鼓舞しながらやってきたというふうに思っています。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回は3月24日の金曜日、11時からの予定となっております。本日はありがとうございました。